

■ 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業に係る第三者評価委員会の結果報告

1 第三者評価委員会について

(1) 趣旨

地域公共交通確保維持改善事業がより効果的、効率的に推進されるために、中部運輸局管内の各協議会の自己評価に対して、学識経験者等を含む「第三者評価委員会」が評価・アドバイス等を行うもの。

(2) 開催日

平成31年2月22日（金）

(3) 評価委員会の構成

学識経験者	愛知工業大学客員教授（座長） 伊豆原 浩二 氏 名古屋大学大学院教授 加藤 博和 氏 南山大学教授 石川 良文 氏
行政経験者（国）	中部運輸局交通政策部長、中部運輸局鉄道部長、中部運輸局自動車交通部長、中部運輸局海事振興部長

2 主な質疑応答

○ 本市地域公共交通会議についての主な質疑応答は、次のとおり。

質 問	回 答
<p>〈石川委員〉 増便により利用が増えるのは当然だが、利用者増の一方で、無駄がないかという視点も重要である。 増便による利用者増と経費増のバランスをどう考えているか。</p>	<p>改正を機に1ヶ月あたり1,000人程度の利用者の増となっている。 最低限の1台増車で、より大きな効果を生むため、単純な増便ではなく、ルート再編、乗換えのしやすいダイヤ設定、パターンダイヤ導入等を含んだ改正としている。</p>
<p>〈伊豆原委員〉 ここまで大幅な改正となると、これまでの目標とリンクするのか。 前年との比較が困難になると思われるが、今後どのようにチェックして改善につなげていくのか。</p>	<p>住民の声を把握するためにアンケートを毎年実施しているが、今年度は改正の影響を見るために改正後にアンケートを実施した。 そこで得られた声は次の改善に活かしていくが、1年程度は様子を見て分析を進めたい。</p> <p>〈加藤委員から補足説明〉 清須市は、改正で路線を分割するなどしており、それに応じた目標値を新しく設定しなおしている。 改正後は予想以上に利用が伸びており、要因としては、パターンダイヤが実現したことが大きいのではないかと。</p>

質 問	回 答
<p>〈伊豆原委員〉 アンケートだけではなく、担当者が実際に乗車し、利用者の生の声を聞くことが重要である。 サービスレベルが上がり、利用者も増えているならば、住民同士のクチコミによって利用が広がる状況になると良い。 住民の声を聞くのがアンケートばかりでは寂しい。 順調なときにこそ積極的に住民の中に入り直接声を聞いてはどうか。 過去にはバス停で利用者に直接意見を聞いていたこともあると聞いているが。</p>	<p>市民の声を聞くとの観点でアンケートを実施しているが、それだけではなく、担当者が乗車した際にご意見をいただくこともある。 直近では、担当者がバス停で直接利用者の意見を伺うというような機会を設けたことはないものの、(類似例としてよいか不明だが) 直接住民の中に入って言うことであれば、改正内容をPRするために、主な利用者である高齢者の集まりに職員が出向き、説明をおこなったこともある。 今後なるべく細かく市民の声を聞いていきたい。</p>
<p>〈中部運輸局交通政策部長〉 免許自主返納の無料券について、利用者がその後、どれだけ定着したのか。 3ヶ月で定着しているとすれば、有効期限を1年に延長する必要はなく、無駄な財政支出となっていないか。</p>	<p>個別の返納者の動向は把握していないが、3ヶ月では利用しないとの声もあり、なるべく長く期間を取ることで利用の機会を増やすために有効期限を延長した。 延長後の利用者数は大幅に増えており、利用促進策としての負担に見合った効果はあがっている。</p>
<p>〈中部運輸局自動車交通部長〉 これだけ利用が増えているのならば、乗客の積み残し対策はどうしているのか。</p>	<p>乗車定員の少ない車両を使用していることから、積み残し対策として従来からタクシー対応を実施している。 運行事業者がタクシー事業者であるため、積み残しが出る状況になれば車載無線を活用して近隣の事業所からタクシー配車をすることが可能である。</p>
<p>〈伊豆原委員〉 清須市はこれまで住民とコミュニケーションを密にしている印象がある。 これだけ実績が上がると、他団体からの問い合わせもあると思うが、そのようなことにも気を配って、是非、いい地区になるように育てて欲しい。</p>	